

R4年度「全国学力学習状況調査」及び「すくすくウォッチ」の各教科の概要

国語



全国学力テストの問題では、知識及び技能の分野においては言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化についての問題が出題されていました。(漢字の正しい表記・相手との良好な関係を作る言葉の使い方・書き言葉と話し言葉の違い・美しい文字配列等の問題内容)

大半は、思考・判断・表現力の分野からの出題が多く、文章を読んで他者の良さを理解したりアドバイスを取り入れたりして自分の考えをまとめ述べる問題が出題されていました。出題内容は、「話し合いの様子」・「物語」・「友だちから感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを知る」といった内容でした。短答式、選択式についての問題には強かったです。記述式、特に五十字から百字の長文で答える正答率が天野小学校だけでなく全国的にも低かったです。その理由として、文章作成に関し、出された条件を3つ入れ込んで解答する等かなり高度な問題も多く、1つあるいは2つの条件を満たして書いてはいるものの、3つの条件全てを満たし書くことは難しかったようです。毎年同じような問題が出題されていますが、昨年度と比べると、自分の考えを書くことに少しずつ自信が持てるようになってきています。

すくすくウォッチの問題では、文章表記、ローマ字表記、故事成語・ことわざ、指示語、敬語、主語と述語等4年生までに習った基礎的な問題が出題されていました。どれもよくできていましたが、ローマ字表記の大文字小文字の使い分けについてと、故事成語とことわざ等日常生活で使うことが少ない言葉については正しい意味を選ぶことが難しかったようです。

これらを受けて、現在わが校で研修を進めている思考力向上のためのシンキングツールを使って、考えを深めたりまとめたりする力を育てたり、授業の振り返り等で観点や条件を与えてまとめる等の作業を習慣化していけるよう授業を進めてまいります。また、故事成語やことわざについては、校長室チャレンジでも挑戦できるよう企画します。日頃からご家庭でも故事成語やことわざを使っていただいて、これらが子どもたちの中に自然に入っていけるようご協力をお願いいたします。

算数



全国学力テストの問題では、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域から問題が出題されていました。

「数と計算」「データの活用」の問題は比較的正答率が高かったです。課題が見られた問題は、「変化と関係」「図形」領域でした。近年、「答えを求める問題」よりも「資料を読み取り、考え、答えを導き出したり、なぜそうなるのか理由を言葉と数で説明する問題」の出題数の方が多くなっています。問題を読み取る力や根拠をはっきりさせて考えを記述する力についても他の問題に比べると、正答率がやや低いですが、昨年と比べると、随分と解き方について自分の考えを表現できるようになってきました。

ただ、割合の問題について、果汁が含まれている飲み物の量を半分にしても味は変わりませんし、果汁の割合も変わりません。しかし、「割合が変わる」と答えた児童が多く、そのことから、算数の学習を日常生活にも役立てることができることを感じさせながら授業を進めていく必要があると考えられます。学習したことが、普段の生活の中で活用できる場面を設定しながら授業を進めていきます。

すくすくウォッチの問題でも領域については全国学力テストと同じでした。知識・技能を問う問題より思考・判断・表現力を問う問題の方が苦手で、選択式・短答式よりも、根拠を明らかにして考えを述べる記述式の問題が苦手ということが分かりました。また、全国学力テストでも同じことが言えましたが、算数の学習を算数科としてだけではなく、その学習を実生活の場面に生かせるように意識しながらこれからの学習を進めていきます。

理科



全国学力テストの問題では、「A物質・エネルギー」「B生命・地球」の二つの内容区分から、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」など、科学の基本的な概念等を柱とした内容がバランスよく出題されていました。出題内容は、「実験器具の使い方」「太陽の動きと温度の変化」「電気の働き」「金属と磁石」等、3年生・4年生で学習したものでした。どの領域でもよくできていましたが、特に「エネルギー」を柱と

する領域では全国平均を大きく上回っていました。課題としては、問題文の内容を読み取りそこから図説やグラフを選ぶのが難しいようでした。また問題の傾向を見ると、実験の結果から次なる課題を見つけて解決していこうとしたり、他者との協働学習により考えを深めていこうとしたりする力が問われています。

すくすくウォッチの問題では、「エネルギー」「地球」についての出題がありました。「地球」を柱とする領域では全国平均を上回っていましたが、「エネルギー」の分野では全国平均より低い結果となっていました。出題内容としては、風の力の大きさとももの動き方の関係について、実験結果から考察する問題や、結露について日常生活と関連付ける問題はよくできていましたが、検流計の使い方を正しく理解しているかを問う問題や、2つの乾電池を用いるとき、電流が大きくなる導線のつなぎ方を理解し、図で表現する問題に課題が見られました。

実験などで体験活動をたくさんできるように、また振り返りを行うことで自分の考えを言語化する力を養い、いろんな分野を複合的に考えられるように日頃から意識して授業を進めていくようにします。

わくわく問題（教科横断型）



「大阪湾での漁獲量や栽培漁業とごみ問題について」や「自動で動く自動車」、「学校生活の中での課題」等身近な課題を題材にして、社会の諸問題に興味関心を持ち、自ら課題を見出し、調べたり話し合ったり解決策を考えたりする態度・技能を育てることを目的とした問題が出題されていました。

図や表、グラフ、短い文章、会話などの複数の情報から内容を読み取り、分類・整理する力、思考する力、そしてそれを根拠にして自分の考えを伝える力、さらには新たな課題を見つけ出す力が求められていました。またそれらの問題の中で、プログラミング思考・論理的思考を育むことをねらった問題もありました。基礎的なプログラミング的思考や簡単な資料を読み取り自分の考えを書く力は随分と備わってきたように思いますが、5・6年とも、資料から読み取れたことを文章化したり、書いている記事に関連するグラフを考えたりすることは苦手なようでした。

昨年度では考えを述べることに苦手意識を持った児童がたくさんいたことから、自分の考えを述べる表現力などは随分力をつけてきたように思います。今後も、ICT機器を活用しながら、さらに思考力が向上できるよう、シンキングツールなどを使い考えをまとめる方法について学習を進め、データなどを根拠にして考えを述べる力がつくように、また友だちとの協働学習で考えを深めていく力、課題解決と共に新たな課題を設定していく力等についても育てていきたいと思ひます。



児童アンケート

天野小学校の子どもたちの頑張りが良く分かる結果となっていました。5年生・6年生の両方共で肯定的意見が高かったものについて載せたいと思ひます。

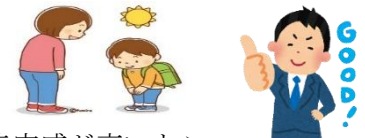
- 家の人に褒められることがある。
- 家の中にホッとする場所がある。
- 家庭でその日の出来事を話している児童が多い。



等の項目のアンケートに肯定的意見が多かったです。子どもたちにとってお家がホッとする場所であること、何でも話せる場所であること等がよく分かる結果となりました。また、

- 友だちが困っている時に慰めたり助けたりしたい。

等、友だちに対しての優しい気持ちを持っていることについて5・6年共通して肯定的意見が高かったです。



また、6年生ではいろんなことに「興味関心が高く」、「頑張り屋だ」「自分には良いところがある」等の自己肯定感が高いところ、5年生では「何事にも一生懸命に努力する」や、「それを応援できる仲間」の存在にも肯定的意見が多くうれしさを感じたところでした。反対に、

- 振り返りをして、自分の意見をまとめていく。
- 文章の大事なポイントを考えながら読む習慣。
- 勉強が分からない時、諦めてしまう。
- 協働的学習や他者との比較で、自分の考えを深めたり広げたりする。

等に課題が見られました。

授業の中でこれらの点を意識しながら、さらに子どもたちの良さを伸ばせるようこれからも頑張っていきたいと思ひます。

天野小学校のモットーとしている「**あ**かるくあいさつ、**ま**じめに学習、**の**びのびチャレンジ」の精神が子どもたちにさらに浸透するよう、頑張ります。

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

- ア 子ども達の学びの姿勢が良くなるよう授業の流れを計画し、**教具・教材の工夫を入れながら**、集中力が持続するよう取り組んでいきます。
- イ **基礎基本の確実な定着**を図るため、読み・書き・計算等の反復練習を行っていきます。
- ウ **自力で問題を解決する学習習慣**が身につくように、じっくりと考える時間の確保に努めます。
- エ **図やグラフ・表から情報を読み取り、現在の課題や解決策を考える時間**の確保に努めます。
- オ ペア・グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えを相手に伝えられるよう、またしっかり聞くことで考えが深められるよう「**主体的・対話的で深い学び**」のある指導を目指して授業改善に努めます。
- カ **ICT機器を活用**し、視覚に訴え、分かりやすい授業の工夫・改善に努めます。
- キ 自分の考えを持ち、表現できるようにするため、ロイロノート等本校が重点的に取り組んでいる**シンキングツール**の計画的・系統的な活用（1人1台端末の日常的かつ効果的な活用）をめざします。
- ク 読書や音読、辞書引き等を通して、児童の**語彙力(故事成語やことわざ等)**の向上に努めます。
- ケ 課題についてじっくり考え、**根拠に基づいて**、話ができるよう発問の工夫をおこないます。
- コ 学習するめあてを持たせ、学習の終わりには振り返りをおこないます。振り返りでは、**キーワード(条件をつけて)**を与えて文章化することで学習の定着を図ります。
- サ がんばった時には、しっかりと褒め、悪い事をした時は、しっかりと指導を入れます。困っている子どもには、寄り添い、助けることをさらに意識します。

(2) 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ア 相手の目を見て、最後まで話をしっかりと聞きましょう。**聞くことは学習の第一歩**です。
- イ 分からないことや困ったことがあっても**あきらめずに最後まで粘り強くやり通す**ことが大切です。毎日の努力の積み重ね、小さな一歩ずつの歩みを大切にしましょう。
- ウ 新聞や本を一日に少しずつでも読みましょう。スマホやパソコンだけに頼らず、自分の目で文字を追いかけて、文を読むことが大切です。
- エ ゲームやスマホをする時間を決めて、宿題や自学自習をしっかりとこなっていきましょう。

(3) 保護者のみなさまに協力してほしいこと

ア 子どもへの温かいまなざしと声かけを

家族での会話を大切にしてください。コミュニケーション力、語彙力、情緒の安定、やさしさや思いやりの心など、毎日の生活の礎（いしずえ）となるものが、家庭の中で家族が交流することによって培われると思われます。そういうものの上に積み重ねられるのが本当の学力です。

イ 規則正しい生活リズムの定着を

毎日同じ時刻に起きて、同じ時刻に寝ている児童が多いようです。規則正しい生活リズムを確立することによって、健康な体を作り、学習への意欲と集中力を高めることができます。引き続き、毎朝の「朝食」も含め、「早寝・早起き」ができる規則正しい生活リズムが定着できるように、ご協力をお願いいたします。

ウ 読書に親しむ習慣づくりを

スマホ・パソコン・ICT 機器が主流の現代ですが、こんな時代だからこそ活字に親しむこと・読書の習慣をつけることを大切にしてほしいと思います。問題に取り組もうとする時、まず問題をしっかりと読み、その意味を理解できる力、短時間に集中して文章を読み取れる力をつけることが今の子ども達の課題となっています。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきながら、大切なお子さんを保護者の皆さまといっしょに育てていきたいと思ひます。学校でもおうちでも、同じことをお子さんに伝えていけば、きっとよい効果が得られると思ひますので、ご協力をお願いいたします。